

【中学部 国語② 実践の概要】

- 中学部2年 国語 (単一障がい学級)
- 本時の題目：前回の動画を見て、場面に応じて丁寧な言葉遣いができたか、振り返りをしよう
- 本時の目標：
 - ・前時に教師から指示されたものを保健室や職員室に取りに行った際の動画を見て、丁寧な言葉遣いで話をする場面であることがわかり、丁寧な言葉遣いをする際には、文末に「です」や「ます」をつけることがわかる。(知・技)
 - ・丁寧な言葉遣いができている場面に気づき、発表することができる。(思・判・表)

授業者のねらいとしては「2学期に現場実習が控えていることもあり、丁寧語を意識して話せるようになってほしい」というものであった。そこで丁寧語を題材にした授業を行った。導入で常体と敬体のペアをつくるカードゲームを行った後、前時の活動の動画を見て、場面に応じて丁寧な言葉遣いができているか、できていなかったかをグループに分かれて判定する活動を行った。最後に丁寧な言葉遣いでは、「です」、「ます」を語尾に使うことがポイントであることをまとめとして伝えた。

【良かった点・工夫されていた点】

- 事前に動画を撮り、○×クイズ形式にすることで、生徒たちが楽しく学ぶことができるような場面が設定されていた。
- グループ活動では、生徒同士で答え合わせをすることで、互いの考えの違いを知ることができていた。

【課題】

- ゲーム形式の活動が多く、生徒たちも主体的に取り組もうとする様子は見られたが、丁寧語の使い方を教えるだけの授業になっていた。
- 展開の動画を見ながら、できていたか、できていなかったかの判定を生徒同士とする場面で、「いいですね」、「おしかったですね」の札を挙げていたが、何がよかったのか、何がおしかったのかというところまで思考させることが必要であった。
- 丁寧語を学ぶ上で、なぜ丁寧語が大事なのかという部分を考える時間がなく、生徒たちが丁寧語の必要性を理解するまでには至っていなかった。
- めあてとまとめの提示はあったが、生徒の言葉で振り返りをする時間が取れず、生徒たちが何を学んだかの確認ができていなかった。

【助言】

- 『なぜこのことを学ぶのか』ということが子どもたちにとっての必要感につながる。子どもたちは主体的に取り組んでいたが、言葉による見方・考え方を働かせた深い学びにつながっていたかということ、そこが少し足りなかった。敬語を学ぶのはなぜかという視点を生徒と一緒に考えながら、生徒自身がその必要感を感じられるようになってから、丁寧語の使い方を学習するとより深い学びになる。
- 動画で振り返りをしていたが、何がよかったのか、何がおしかったのかという部分を抽出すると、そこに思考が生まれる。深い学びは、仕方の理解だけではなく、なぜそれがよいのか、おしかったのかという部分を自分なりに思考し、言語化できるかが重要である。
- 『深く学ぶことができる授業展開になっているか』ということが重要である。深い学びに向かうには、『主体的・対話的な授業を展開すること』が求められる。ゲーム的な活動を取り入れることは手法の一つであるが、その教科ならではの深い学びに向かうにはどうすればよいかの視点を持って授業構築することが求められる。